



<まちづくり団体・住民の皆さまの取組み>

まちづくりを考えよう - 東北大学 都市・まちづくり研究会の活動について -

今回は茨城県を離れ、東北地方でまちづくり活動を行っている学生さん達の取組みを紹介したいと思います。

☆東北大学 都市・まちづくり研究会とは
東北大学 都市・まちづくり研究会（以下、都市研）は、2007年1月に発足した東北大学のサークルです。その趣旨は

- 1) 都市に関する様々な事柄を勉強し、将来都市に関わるための素養を身につける。
- 2) 都市計画、歴史、文化、景観デザインの基礎知識等の勉強会を開き、それを踏まえた上で、事例を自分たちの目で確かめる。
- 3) 個々の体験で得たものを活かし、最終的にはまちづくりに関する何らかの提案を行いたい。

となっており、当初は本を読んでその内容を発表するなど勉強会をしていましたが、東北のあちこちに顔を出させていただき、現在は実学中心で活動しています。



フィールドワークの様子

☆メインである福島県伊達郡桑折町での活動について
どうして仙台の学生が福島の自治体とつながりを持っているのか、疑問に思われる方もいらっしゃるかと思います。これは都市研発足のきっかけにもつながる話なのですが、東北大学工学部建築・社会環境工学科では毎年「景観開花。」という土木のデザインコンペが行われています。2006年度にこのコンペの運営を担当していた学生が、ある審査員の方に声をかけていただき、桑折町を紹介していただいたのが実際のまちづくり活動に参加させていただく契機となったのです。

桑折町は福島県の東北に位置し、福島市に隣接している町です。人口は1万3千人ほどであり、奥州街道と羽州街道の分岐点である追分があります。この奥州街道沿いから町を盛り上げていけないだろうか、と考えて私たち都市研が桑折町に「カフェ図書」を提案させていただきました。

●カフェ図書とは

桑折町での奥州街道の様子を見ていると、歩いている人の様子はあまり見受けられず、単なる車の通り道という印象を受けました。せつかくの由緒ある街道なのでこのまま埋もれさせてしまうのはもったいない、何かいい方法はないだろうかというのが町の悩みどころでした。そこで私たち都市研は

- ①奥州街道を中心とした町の活性化
- ②まちづくり活動の敷居を下げる

という2つのコンセプトを備えた「カフェ図書」案を町に提案しました。②については、カフェ図書にいらなくなった古本を寄付したり、カフェに寄って意図せずとも賑やかな雰囲気を作ったりと一見小さな行為がやがて町全体の活性化につながっていけるような場所を作れたら、との想いを込めています。



ワークショップ「家具のペンキ塗り」



●昨年度のカフェ図書「plat」

こうして町からカフェ図書を桑折町の元気再生事業の一環として認めていただき、本格的にカフェ図書の準備を始めることになったのが2008年の5月頃でした。準備を進めていって5カ月たった2008年10月11日、無事カフェ図書platをオープンさせる事ができました。プレハブを借りて学生が土日に営業し、2009年2月28日に一旦閉店するまでに来場者数が約1100人・都市研主催のイベントの実行回数がオープン前も含めて8回・集まった書籍数約4,000冊と町の方々に結構協力していただけたと思います。



運営委員会の様子



カフェ営業の様子

●今年度のカフェ図書「まゆたま」

桑折町の自治体・町民の方々のご好意により、2009年度もカフェ図書事業を続行させていただくことになりました。昨年度は準備段階から運営まで全て都市研で行っていましたが、今年度は運営段階から町の人にも関わっていただくとの思いから「カフェ図書運営委員会」を公募しましたところ、6名の桑折町の方々が運営委員として加わってくれることになりました。都市研と6名の町の方々とで運営委員会を結成し、2週間に1回のペースで「カフェ図書は何を目指すのか」、「今年度からカフェ図書の名前は何にするのか」といった具合に話を進めてきました。また、今年度はご厚意で古民家を貸してくれるという方がいらっしやったので、その改修図面も町の運営委員・設計士の方々と相談しながら設計しました。その工事が終わり、準備も最終段階を迎え、2009年11月21日、カフェ図書は新しく生まれ変わって再始動します。「昨年度以上に町の方々に愛され、町の人と一緒に町を盛り上げていけるような存在に『まゆたま』がなれたら」その想いを忘れることなく、カフェ図書に関わっていきたいと考えています。

●これからの都市研の活動について

「まゆたま」がオープンし、カフェの経営も町の人と協力してなんとかこなしていますが、これからいかに町の人達に利用してもらうのか、次の手立てを考えています。ただのカフェをやろうとしていたわけではないので、何らかのイベントを行ったり、桑折町の紹介をしたりとまだまだやらなければいけない事があり、「どう町とまゆたまをつなげていくか」がこれからの運営委員会の課題になってくると思います。

今まで書いてきたように、福島県桑折町での活動が都市研のメインの活動ですが、他にも岩手県平泉町での「夢灯り+」といったまちづくり活動に参加したり、宮城県仙台市青葉区・宮城野区のイベントのお手伝いをさせていただいたりとその活動範囲を広げていっています。このように色々な所からお声を掛けていただいていた色々な活動に参加させていただいているのですが、深く関われば関わるほど責任のある事を任せたりします。「まゆたま」もそうです。学生である以上、プロではないので出来る事は限られていますが、学生なりの自由な発想を活かして私達なりにその地域のために出来る事を精一杯やるのが都市研に求められていることではないだろうか、と考えています。色々な困難はありますが、そこから学んだ事を他のまちづくり活動で活用できるよう、まちとまちの（アイデアという）橋渡しになれるよう、これからも精進していく所存です。



まゆたま外観